



近年、不登校生徒が増え続けているようです。中でも中学生は、小学校、高校に比べて圧倒的に多く、令和4年の10月の文部科学省の調査では、小学生、高校生が2パーセント未満なのに対して、約5パーセントもの生徒がその対象だということです。クラスに一人の生徒がいることとなります。

先日、法務の途中でしたが、とても気になる新入生らしき女学生を見かけました。なぜか同じ場所を行ったり来たりしていたのです。およそ30分後にも同じ場所を通りかかったのですが、やはり同じことを繰り返していたのです。

私は尋常ではないことを思い、学校に連絡しようかとも考えていましたが、しばらくは様子を見て決めたのが、ゆっくりゆっくりと自転車を漕ぎ始めました。私は少し離れてついて行ってみました。やっつと校門をへぐることができました。それは午前十一時近頃の出来事だ。

「行きたくても行けない」何が深い悩みを抱えているだろうかと心が痛みましたが、彼女自身の力で行動できたことに、胸を撫で下ろしました。後日、一人で学校に向かう姿を見かけ、大丈夫そうだなとは思いましたが、しばらくは見守っていいことだと思います。

かつて私たちの生きてきた社会では、地域社会との関わりが深かったことから、社会全体で子供を見守り、育てるといった環境が備わっていたかと思えます。しかし時代と共に「隣は何をする人ぞ」的な関係が蔓延し、近所で亡くなった人があったとしても、気づかないくらいのことです。

社会、家庭において、ますます希薄になりつつある人間関係は防げるはずの悲惨な事件や事故をも防げなくなるのではと危ぶまれます。「不登校問題」の遠因の一つが、こんなところにあるのではないかと思われたいと思います。

## 「住職の家庭菜園体験」

### 「よる自然観に共感」

森 光明

光受寺通信の6月号を拝読させていただきました。家庭菜園を通して、自然の絶妙なはたらきに目覚められた体験を、とても印象深く、共感をもって拝読させていただきました。住職が入方の畑で、小規模ながら野菜栽培をされていることは、存じていましたが、栽培体験を通して大いなる自然のはたらきに目覚められた記述には、思わず拍手を送りたい気分でした。

実は令和4年に光受寺通信に「自然を観る」と題して投稿させていただきましたが、「ご就職と全く同感であると知り、これは仏教理解の上に貴重ベースになるのではと感じた次第です。」

これは『未燈抄』の(5)にも類似の記述があります。親鸞聖人の86歳の時の記述で「みだ仏は自然のようをしらせんりょうなり」(真宗聖典、602)があります。関心のある方はお目通しください。

私も自然への畏敬は深まるばかりで、畑に立った時には、慈しみ育ててくださった自然のはたらきに合掌するのが習慣になりました。この先、光受寺から新思想が広がりますので大いに期待しています。



## 今月の掲示板

不幸とは  
幸せだと  
気付かないこと

坂野 春香

この言葉は、一八才で癌が縁となつて亡くなった坂野春香さんが、闘病の中で家族に向けられたもので、中日新聞に掲載されていた言葉です。

春香さんの小学校6年生の時、癌の発症が分かり、一時的には本人はもちろんの事、家族も人生の暗闇に沈み込んでしまったことでしょう。

しかし、治療を続けていく日々の中で、家族から惜しみなく注がれる愛情や、精いっぱい治療にあたってくださる方々の努力に、私の心が向けられた時、「幸」と「不幸」の転換が起ったと思われまふ。

私たちは自分の思い通りにならない時には「不幸」を感じ、またこの思いは生涯変わることはないのです。人生に長短はあるのですが、それもわずかな十年の間のことです。

「今の自分」に幸せを感じられて生きれることこそ、たとえ短いと言われる人生であっても、そこには心からの安らぎと、幸せがあることを教えてくれるように思います。

いっちなじと学んでいます。

光受寺学習会

五月十九日(土)

午後二時半～三時半

『歎異抄』第3条



山野草に戯れる蝶。(長野)

本文冒頭文

慈悲(じいひ)に聖道・浄土(じょうど・じょうど)のかは(わり)りめあり。聖道の慈悲(じいひ)は、ものをあは(わ)れみ、かなしみ、はぐむなり。しかれども、おもふ(う)が(う)くたすけとべること、きは(わ)めてありがたし。

浄土(じょうど)の慈悲(じいひ)は、念仏(ねんぶつ)してこそ仏になりて、大慈大悲心(だいじだいひしん)をもて(も)つ(も)つ、おもふ(う)が(う)く衆生(しゅじょう)を(う)を利益(りやく)するを(う)べきななり。

今生(こんじやう)に(に)いか(に)何を(お)し不便(ふびん)とおもふ(う)とも、存知(ぞんち)の(う)くたすけがたければ、この慈悲(じいひ)始終(しじう)は(な)し。しかねば念仏(ねんぶつ)のみぞ、すえ(う)を(う)りたる大慈悲心(だいじいしん)にてさ(た)ぬ(た)ぬ。

意訳

慈悲(じいひ)という(う)こと(に)ついて、聖道門(じょうどうもん)と浄土門(じょうどもん)では大きな違い(ちがひ)があります。(慈悲(じいひ)という(う)ことは、苦しみ(くるしみ)悩む(なやむ)人をあわれに(お)思い(お)いとおしみ、守り(まも)り育て(う)てること(に)です)が、聖道(じょうどう)の慈悲(じいひ)という(う)のは、自力(じりき)の力(ちから)で人々(ひと)を苦しみ(くるしみ)から救い(すく)い上げて、安ら(やす)かな幸せ(しあわせ)を(う)えよう(う)とする(う)ことを(う)い(う)つのです。

しかし、凡夫(ぼんぷ)が、どんな(に)しても

思い(お)通りに(た)助け(た)ける(う)こと(は)、至難(しじなん)の事(こと)です。浄土門(じょうどもん)の慈悲(じいひ)という(う)ことは、自分(じぶん)が本願(ぼんがん)を信じ(しんじ)念仏(ねんぶつ)して、すみやかに成仏(じやうぶつ)して、その(う)えで大慈大悲心(だいじだいひしん)を(お)こして、思い(お)のまま(まま)に一切(いっけつ)の衆生(しゅじょう)を(すく)い、真実(まこと)の利益(りやく)を(う)える(う)ことを(う)い(う)つ(う)べき(べき)な(な)のです。

この世(このよ)に凡夫(ぼんぷ)として(な)生きて(な)る(な)る限り(かぎり)、どんな(に)いた(わ)しい、かわい(かわい)そう(そう)だ(だ)と思(おも)つても、思い(お)通りに(た)助け(た)ける(う)こと(は)でき(でき)ない(ない)から、わが力(わがちから)によ(よ)つて、この世(このよ)で人々(ひと)を(すく)おうと願(ねが)う慈悲(じいひ)は中途半端(ちゆうずはんぱん)な(な)もので(な)しか(しか)あり(あ)りませ(ませ)ん。

そ(そ)う(う)い(う)う(う)わけ(わけ)です(です)から、本願(ぼんがん)を(しん)じて念仏(ねんぶつ)申(まを)す(う)こと(だけ)が、ほん(ほん)と(と)に(に)徹底(てつてい)した(した)大慈大悲心(だいじだいひしん)だ(だ)と言(い)え(え)ま(ま)し(し)よう(よう)。と仰(おほ)せ(せ)ら(ら)れ(れ)ま(ま)した(した)。

今回の第4条(だいよじょう)は(は)条文(ぶんぶん)を(よ)んだ(だけ)では(は)、なか(なか)な(なか)、(な)そう(そう)か(か)と(と)な(な)つ(つ)い(い)て(て)いた(ただ)け(け)ない(ない)の

では(は)と思(おも)い、瓜生(うりなま) 崇氏(たかうぢ) (滋賀県(しやがけん) 玄照寺(げんしょうじ)住職(じゆうしやく)) の(の)ユーチューブ(ユーチューブ)で(で)流(なが)されて(て)いる(る)法話(ほっわ)を(き)く(き)こと(に)いた(た)しました(した)。

とても丁寧(ていねい)に(に)具(ぐ)体(たい)例(れい)を(し)され(れ)分(わ)かり(や)す(す)く(く)説(せつ)明(めい)され(れ)て(て)いた(た)ので(で)、私(わたし)自身(じしん)も(も)多(お)くの(くの)気(き)づ(づ)き(き)と、感(かん)動(どう)を(いた)だ(た)く(く)こと(が)でき(でき)ました(した)。約(やく)一(いち)時(じ)間(かん)半(はん)(休憩(きゅうけい)を(い)れ(れ)て(て)した(た)が、今(いま)回(かい)は(は)最(さい)初(しゅ)の(の)5(ご)行(ぎやう)だけ(だけ)に(に)つ(つ)いて(て)の(の)話(わ)で(で)した(た)ので(で)、次(つぎ)回(かい)引(ひ)き(き)続(つづ)き(き)拝(はい)聴(ちやう)し(し)たい(たい)と思(おも)つ(つ)て(て)お(お)り(り)ます(ます)。

私(わたし)たち(ち)の(の)身(み)近(ぢか)に(に)生(な)ま(ま)て(て)い(い)る(る)仏(ぶつ)教(きやう)の(の)教(きやう)え(え)を(を)改(か)め(め)て(て)実(じつ)感(かん)し(し)、感(かん)動(どう)し(し)て(て)いた(ただ)け(け)る(る)お(お)話(わ)で(で)あ(あ)る(る)と思(おも)つ(つ)て(て)い(い)ます(ます)。ぜひ(ぜひ)みな(みな)の(の)方(かた)の(の)1(いち)参(さん)加(か)を(を)。

(七月十五日(土)午後2時)

お待ちしております！

お寺サロン開かれる。 — 光専寺 —

カイロ・セラピック指導者、伊藤喜美江(いとうきみえ)さん(さん)によ(よ)つ(つ)て(て)椅子(いす)に(に)腰(こし)か(か)けた(た)ま(ま)まで(で)でき(でき)る(る)効果(こうか)的(てき)な(な)運(うん)動(どう)を(を)指(さ)導(どう)し(し)て(て)いた(ただ)き(き)ま(ま)し(し)た(た)。

皆さん(みなさん)大(だい)に(に)楽(たの)しみ(しみ)な(な)が(が)ら(ら)の(の)挑(てん)戦(せん)で(で)した(た)。

次回 七月十二日(木)

一時半～光受寺

講師 瀬瀬宅司氏

「あなたの知らない

補聴器の世界」

